

## 令和4年度第3回加西市子ども・子育て会議

日時 : 令和5年2月22日(水)  
10:00~12:12

場所 : 加西市文化センター2階視聴覚室

開会

委員紹介

教育長挨拶

協議事項

### 1 小規模保育所の開園について

○会長 皆様、おはようございます。加西市の状況も感染症、そしてまたコロナの状況が教育界もなかなか落ち着かない状況の中で子どもたち、また教職員の方たちは過ごしておられることと思いますけれども、今いろいろな思いで加西市の子育てを考えておられる方々がここにお集まりくださりまして、また先ほど教育長さんのいろいろなお考えを聞かせていただきまして、この子育ての会議がより一層、加西市の未来にとって充実したものになりますように今日の会を皆さんと一緒に進行していただきたいと思います。

○事務局 小規模保育所については、令和2年度から整備を開始しまして、令和3年10月に1園、令和4年4月に1園整備してまいりました。この令和5年4月に新しく開園する2園、万和学舎北条保育園、それから中野保育園、開園日は4月1日。どちらも小規模保育所のA型、保育従事者が全て保育士であるということですのでしております

### 2 令和5年度 認定こども園等の利用について

○A委員 今定数を増やしてもなかなか保育士さんが集まらないということをおっしゃってましたけども、保育士さんの採用状況なんかは、市統一で決めてあるのでしょうか。それともそれは各園に任せる、例えば正職化を進めていっているのか、アルバイトとか、パートタイマーを増やし対応しているのかというのはそこでちょっと難しいところかなというのは思うんですね。それと、ゼロ、2歳の子どもなんかでちょっと手のかかる子が多い場合があるのかなっていう気もするんですけども、そこら辺の子ども

に対しての、どうしても1人か2人そういうのいれば先生が1人かかってしまうと。実際のゼロ、2歳で保育士の定数が決まってるんですけども、それでは対応できないみたいなどころもあるかと思うんですが、そういうふうな対応というのは何か考えられてるのでしょうか。

- 事務局 1点目ですが、公立園については定員管理というものがございまして、正規職員を今現在120名から30名の職員、保育士を抱えているんですけども、保育教員ですね。一定150名程度の定員枠を考えております。残りの方、先生については会計年度任用職員ということで運営をしておるところでございます。規程上担任については正規職員、原則というところと弾力条項について常勤の職員であれば、担任に就かせることができるというような細かい規定があるんですが、一部そういうところが発生しておりますというのが公立園の状況でございます。

私立園については、利用定員に対して必要教員数というのがあるんですが、最近テレビでちょっと報道されてますゼロ歳については3人に先生が1人。1歳については6人に対して先生が1人。2歳についても6人に対して先生が1人。3歳については20人に対して先生が1人。4歳、5歳については30人に対して先生が1人ということで、この中で各園が正職員、パートなり非常勤職員なりの配置をしていただくということになっております。

なので、私立園については運営については各園にお任せしておるところでございます。ただし、担任については私立については正規、非正規を問わないんですが、常勤の職員ということになっておるところでございます。そのような状況で我々がこうしなさいと言える範囲もなかなか、必要教員数は置きなさい。加算というか、必要教員数プラスアルファの先生を何人置きなさいというのも規定で決まっておりますので、この人数は置きなさいということは言えますが、そこで正規、非正規をどこまで制約するかというのは限界がございます。

それから、加配の先生が必要なお子様については、3歳から5歳については加配をつけています。ゼロから2歳のお子さんについても十分に、そもそも受入れを積極的じゃなかったところもありまして、今無償化になったので分け隔てなくというところで、ゼロから2歳の、特に2歳ですね、3歳に上がる手前のお子さんについては、そのように加配が必要ではないかというご意見をいただいております。今後どう進めていくかということを検討しとるところでございます。また、福祉会館に児童療育室ひまわりというところがありまして、まずゼロから2歳のお子さんに対して不安なご家庭については案内するようにさせてもらっております。北部にはほくぶキッズといましてオークタウン加西、南部のほうには善防公民館に善防キッズとしまして、そういう不安の抱えたお母様方、ご家族の方が育児相談をしていただいております。

- B委員 要支援園児、いわば支援を要する子どもですけれど、加西市は親の所得に関係なく完全に無料ってすばらしいですね。本当に大きな一歩を進められたと思うん

ですけれど、これによって乳児ゼロ、1、2歳の入所も増えています。それでその中で、ゼロから5歳までいわゆる要支援児の対応をしっかりとっていくというのは加西市が目指してる方向の一つやと思うんですよ。特にゼロから5歳までのそういった要支援のお子さんに対する体制を整えていただいて、その保護者に対してもちゃんと安心をもって、加西で住んでよかったと思えるような教育体制をつくっていただきたいなと思います。

○C 委員 今現在、加西市は3歳以上のお子さんからお医者様の診断名がなくても、合理的配慮として加配の先生1人、あるいは子どもさん2人に対して先生を1人とかっていう、ちょっと手厚い支援を受けられるような制度になってますよってということで、診断名なんか要らないんだよっていう、そういうことを申し上げてきて、大分お母さんは私たちの意見に寄り添っていただけるようになっております。

本当に加西市はほかの市に比べて、そういう関わり方、丁寧な関わり方をしないといけない乳幼児さんに対する関わり方は、少しは進んでいると認識しております。

○D 委員 私は当事者の立場として息子がひまわりルーム、マーブルキッズもずっとお世話になってました。やっぱり手厚い加配とかそういう部分で、小さい頃は周りに誰かが助けてくれる人がいるという、そういう手厚いっていうことはすごくありがたいというふうには感じます。ただ、小学校に行ったときにはそういう子たちってポンと離されてしまうという現実があります。

ゼロから5歳児で手厚くしてもらって、その後にその子たちが小学校でポンと入ったときにどうなるのかなって。みんな落ち着きない子で授業ができないという学年があったり、そういう現実も見たときにそういう支援っていうのをもう少し広い視野で見えていってもらえたら、親の立場としてはいいなと感じました。

○E 委員 3歳から5歳にしっかり加配がついて、小学校へ出していくということに対してもお願ひしたいなというふうに思いました。

○F 委員 人材の確保というのはすごく大事やと思うんですけど、加西市として人材確保するために何か工夫されていることとかあるんですかね。私の短大とかは何か明石がとっても魅力的に感じるって言って学生がすごく明石に流れていくんですけど、打ち出し方はそんなに違わないんだとは思いますが、どの市もすごく魅力的に感じるという学生はいるけど、多分ちゃんと中身を知ったら。

○事務局 学生さんはやっぱり一度は都市部に行きたいと願望が強い方が多いと思うんですが、どないですか。

○F 委員 明石がすごく、市長さんのせいだと思います。全国ネットで出るとか。

○事務局 交通の便と、保育士の先生自身も先行してゼロ、1歳が無償になったので、結婚して子どもが生まれたら明石に住もうというところもあるらしいです。全部じゃないけど、そういうイメージが定着してきているということで、加西市もこのイメージをもっと出していきたい。

○G 委員 養成校のほうでも学生さんに加西市のアピールをしたいと思います。

### 3 北条東すみれこども園引継ぎ保育状況について

○事務局 令和3年度の北条東こども園から令和5年度の北条東すみれこども園における新規の申込園児数と実際に在園しておりました数字をまとめております。来年度に転園をご希望されている方が3名。1名は市外へ転出、1名は本来の小学校区への園へ変わられます。あと1名が公立園への転園を希望され、4月から公立の方に転園されることとなっていच्छやいます。ほとんどのご家庭が続けてすみれこども園に通園したいと思われており、新規入所に関しましても希望者の多い状況です。

公私立合同での研修会を開催し、キャリアアップ研修、園内研修などなど様々な研修会を設けております。今年1年の運営が次年度以降の糧となり、よい意見におごることなく、またさらに職員一同気を引き締めて運営をしていかれますので、今後も見守っていただけたらと思っています。来年度以降は今年度のように担当者の配置はありませんが、協議会を開催するなど行政としては引き続き指導してまいります。

以上で報告を終わります。

○会長 北条東すみれこども園の引継ぎ状況についてご説明がありましたけれども、これについて何かご質問ご意見等がありましたらどうぞ。ありがとうございました。

### 4 未来型児童館整備基本構想策定状況について

○B 委員 すごいものができるなと思って。出来たらすごいなと思うんですけど、これをつくるのにどれくらいのお金掛かるんですか。

○事務局 今現在機能的には、今考えてるのはこれだけの機能を考えております。ただ、どれだけの規模、大きさのものかまだ考えてない。今から考えているところですので、面積規模によって費用は異なっているので、ちょっとお答えはできかねるんです。

○B 委員 例えば、50億円程度とか、ざくっとした、そういうものは考えておられないんですか。

○事務局 実際、来年5年度以降にこの今の状態ってある意味イメージですよ。このイメージを具体化させる業務をまだ5年度以降に行うことになります。そこで、概算事業費というものがおおむね出せるんですが、今の段階で申し上げられるのはまさに規模であったり、それぞれの部屋の大きさであったりによって全く異なるので、余り数字は申し上げにくいです。ただ、ここだけの皆さんの中に留めてくださるということであれば、先ほど言われた数字よりは少ない2桁には乗るかなぐらいのイメージを持ってもらえればと思います。

- B 委員　でも、学校1つつくるぐらいの感じですかね。
- 事務局　学校1つはもっとかかりますね。先ほど言われたぐらいが学校の場合必要じゃないですかね。
- B 委員　加西市でつくられた泉よつばこども園ぐらいのちょっと大きい感じですね。
- 事務局　あれで敷地面積1,000平米ぐらいか。
- 事務局　あれよりは高いと思います。あと、中に入れる備品もコンピューター、いろんな家具等それも結構な額になるかと思いますが、建物を建てるだけでは済まない。その中に入れる機能によっては、機能というか器具類がちょっと高額になってくるかと思いますが。
- B 委員　スタッフも要りますしね。土地の取得費はかからないということですね。市が持っている土地ですから。
- 事務局　福祉会館の敷地であれば、現在も確保できているところを使うということですので、新たな費用は発生しません。
- B 委員　この施設は、いわゆる近隣型の児童館ではないですよ。そうすると、センター型の機能を持っていると思うんですよ。おのずからいわゆる私たちがイメージする近隣型児童館と違ってくるんで、何を子どもに支援していくかとか、どういう場所にしていくかということをもうちょっと具体的なコンセプトがないと、いわゆる総花的になってしまわないかなというふうに感じます。
- 現在1つの例としては、加西市は不登校の子どもたちが90人ぐらいいるわけですけど、これクラスでいうと3学級ですよ。ものすごい数です。この児童館を不登校の子どもたちが来れる、学校は行けないけど児童館やったら行ける。そこの先生と話したり、そういう場所にしたらどうかと思うんです。不登校の子どもたちを何とかもう一回引き上げてあげる、それを未来型児童館でやるんだっていうようなそんなコンセプトがほしいなというふうに思います。全体にちょっと福祉的な視点が足りないんじゃないかと思います。
- 事務局　機能的な面でお話しますと、学校行けないけど勉強したい子はこちらに来れば、授業が見れる、もしくは学習室でそういった子たちが話し合いながら勉強できる。学習支援というか、そこでオンラインの授業ができるような設備も整えておきたいなと考えてるんです。放課後だけとかじゃなくて、昼間もそういった不登校の子たちが使えるような形がとればなと思っています。
- B 委員　インクルーシブということですけど、今日のお話ではそういう包括的支援とか福祉的支援というのは少し弱いかなというふうに思ったわけです。子どもたちが自由にいろんなところで楽しみの場にして、相談したりそこで学んだり、音楽や美術を楽しんだり、それはいいんですけど、一つは福祉のことを考えていただきたい。支え合う社会をつくるための一つの場所としての未来型児童館というのがあり得るのかなと思います。

○H 委員　この3つの柱として学び、遊び、相談ってあること自体はいいと思うんですけど、相談というのは相談する側とされる側の構造がはっきりしている言葉だと思うので、そこに行くということはすごく行きづらいし、そこを利用していることが見られること自体もすごく利用をかえって阻害することになるかなと思うと、相談機能として備えているけども、外見は交流の場とかというふうになってるとかというような配慮があると利用しやすいなというふうに感じます。

あと1点なんですけど、部活がこれから地域に移行したときに部活が少なくなってきた場合、子どもたちの居場所というのが重要になってくるので、すごく大切だなと思ったのと、人との関わりという部分で人材の確保であったり、そういった人に対するの予算というのもつけていただくということがやはり大事じゃないかなというふうに感じました。

○教育長　校内フリースクールはいい面ももちろんあると思うんです。みんな学びたい。でも行けないっていうことで、子どもたちが一番傷ついたり悩んでいる。それを何とかするための一つの方法として、こんなフリースクールっていうのがあると。ただし、学校へ行かれへん子が何で学校の中のフリースクールへ行けるんだと。普通素直にそう考えることですね。でもやっぱり踏み出すことが大事だし、フリースクールに関して言えば、民間から出てきたことを公がもっと支援するというような形ができないのかなって常に考えています。

何とか来年度予算をつけましたので、校内フリースクールはやりますが、そこで問題も出てくると思います。行ける子だけ行って、ほかの子は取り残されるのかということが一番私は気になってることなので、そういうことも含めて未来型児童館の構想をつくっていったらなと思っています。

○A 委員　玉丘史跡公園の南側に山があって、その下に田んぼがあるんですけど、もう放棄田になってしまってるんですね。ですから、そこにしてもらったら、その前の古墳公園の中に広い芝生がありますので十分使えますし、横浜市で子どもたちが自由に考えて、遊んで、勉強してやってるフリースクールをやったと思うんですよね。ああいう児童館がいいなと思うんです。全てこちらが提供したもので遊ぶ、考えるんじゃないし、もっと子どもたちに自分の好きなことを考えて、好きなようにやってもらうような場所がほしいなと思うんです。子どもたち自分たちで集まってきて、自分たちで考えて、自分たちでやっていくと。大人についてはそれについての支援しかない。

○教育長　まさにSTEAMです。

○A 委員　古墳公園の横へ持って行ってもらうほうが、子どもたち来るにしてもバス停がすぐそばにありますし、中を通って来れますから、何も交通の便も悪くないし、親御さんが連れてきたとしても、あそこの駐車場車が使えるし、幼児向けなんですけども遊戯施設もあるし、畑とか田んぼとかそういう農業体験できる場所もあるし、

いろんなところを活用の仕方を考えればあると思うんですね。

建物についてもプレハブで30年も40使えるようなやつが出てますのでね。費用的にも抑えられると思いますので、ぜひとももう一度考え直していただけたらな思っています。

- 教育長　　よう言うていただきました。私はそっちの案なんです。だけど、結局現場の話をしていろいろ聞いてますと、いろんな事情があって、市街化調整。私はあの緑の中で、やっぱり古代のあれを感じながら子どもたちが自由にというのはイメージとしてはすごくいいので、最初からそれしかなかったんですが、まだこれ決定ではないんですけれど。
- A委員　　前に池もありますし、あの池もため池100選なんかにも選ばれてハクチョウも来ますし、高い塔を建ててやれば、ひょっとしたらコウノトリも来るかもしれませんし。
- 事務局　　福祉会館であれば用地代がかからないからというふうに認識されておるところはそうではございません。それはあくまでも一つの要素に過ぎません。比較検討は、多面的な角度からの比較というふうにご認識ください。放棄田でありながらも農振の用地という枠がかかっているところは、やっぱり非常にハードルが高くて、農業振興地域はそのエリアを確保しようと県は考えられるんですね。
- A委員　　一度県にも相談していただいて。
- 千石部長　　一つの提案ということだとは思いますが、それらは踏まえた上での結論というふうにご認識いただければと思います。
- A委員　　ぜひとも再考察したいと思います。
- 事務局　　史跡公園を検討した候補としてお示ししてますよね。それと福祉会館とを比較した結果が、福祉会館というふうにご説明しました。例えばですけど、玉丘史跡公園と先ほどのご提案、私否定するつもりで言ってるんじゃないように聞いてもらいたいんですが、その比較をする場合には用地買収費が加わります。農地の部分を表土をめぐって残土処分をして造成するという工事費も加わります。基本的にその農地と玉丘史跡公園であれば、絶対的に玉丘公園のほうが有利です。であるにも関わらず、今回こういうご提案をしたというふうにご認識いただけるのが適切かなとは思っています。
- H委員　　シンプルに玉丘史跡公園と健康福祉会館ってすごく近いので、何か機能の一部を玉丘史跡公園に、今の土地を生かして何かしない中でも、アウトドアスペースはそこを使うみたいな。すごく別に歩いて行ける距離、子どもでも歩ける距離だと思うので、何か二個一でしても別にいいんじゃないかなってシンプルに思います。
- 事務局　　今回の福祉会館側につくった場合には、そんなに広大な緑地は整備できません。でもある程度の遊びスペースであったり、池がそばにありますので、水辺を生かした景観づくりであったり、散策ルートみたいなことはできるのかなと思っ

す。

ただ、もっと広い土地で遊び回りたいという場合にはおっしゃるように歩いて行けばすぐそこに史跡公園があるんです。大型遊具もそこへ行けばあります。その辺りは利用者さんの意向で柔軟に利用されればいいものと思っております。

○E 委員 福社会館をもしするとして、農業体験とか、そういうのってできるんですか。

○事務局 この福社会館その場所では、農業体験そのままでできないと思います。ただ、こちら考えていますのは連携する形で玉丘史跡公園、あそこに古代農園があるので、そちらとも連携すれば農業体験はできるのかなとは考えております。

○事務局 オークタウンとかいろんなところと連携しながらやろうというので考えています。だから集合場所はこちらとか、きょうはオークタウンで何かやろうとか、センターでそこで全部が完結するとは思っていません。

○事務局 未来型児童館をコアとして、ほかの公園や自然、そして学校とも連携を図るという形を考えているんです。ですから、ここ1つで全部が全部が叶うとは思っていないんです。ない機能については、連携するところで利用したいと考えています。

○A 委員 未来型児童館が来た場合、今その福社会館が担ってる高齢者向けのやつがどうなるのか、これは違うとこ行きなさいよとなってしまうのか、そこら辺もちょっと問題ないのかなというのがあるんですけどね。

○事務局 南側の芝広場、池を部分的に埋め立てる、そういった形で建てることを考えている状況です。あと、福祉施設を追いつ出すというつもりはなく、福祉と高齢者との連携を図れる。だから、昼間使わないときは高齢者の方がこちらに来て使っただく形での利活用もできるんじゃないかと、そのように考えています。

○A 委員 高齢者との連携は素晴らしいと思うんですよ。学校の教師であったりとか、子どもに教えることをやってきた人もたくさんいます。そんな方たちに児童館のところですぐ隣ですから来てもらって、例えば学習指導していただくとか、子どもの対応をしていく。そしたら、隣がいいじゃないかと私はそういうふうに思いますね。

もう一つお願いしたいのは、加西市にも既にいろんな団体ですか、そういった場所、機能を備えたところもあります。そういったものは既にありますので、そこにまたわざわざもう一個似たようなものをセンターとしてつくる必要はありませんので、屋根の上に屋根をかけることしないでほしい。

もっと加西市の中で、連携できるようなネットワークをつくる機能ですね。それを未来型児童館にお願いしたいと思います。いわゆるソーシャルワークをやってほしいということです。それが大事です。何かをつくるよりも今あるものを生かしたほうがいいです。よっぽどうまくいきます。でも、何が足りないのか、何が足りてるのかということの調査も、もう一度やり直すことが必要じゃないでしょうか。

○F 委員 将来的には学童も一緒にやるんですね。

- 事務局　学童は未来の学校構想で検討いただいた案は、11小学校存続ということでいきますので、学童保育園は小学校単位で基本残すということになるかと思えます。
- 会長　皆さんから掘り下げた貴重なご意見がいっぱい出たことと思います。また、事務局のほうでもこれを再検討していただきながら、また次のステップに進んでいただけたらなと思います。議事進行が委員の皆様方のご協力によりまして、無事終わられましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。事務局のほうどうぞよろしく願いいたします。

## 5. 教育部長挨拶

## 6. 閉会